

令和 6 年 度 学 校 評 価 書（ 自 己 評 価 ・ 学 校 関 係 者 評 価 ）

校訓	「誠の心にしたい信念を貫く」		重点目標	「SEIKEI PRIDE」（誇りをもって卒業できる生徒） （１）学力と生活力の基盤づくり ・一年次においては、学力と生活力の基盤づくりを進める。 ・通信端末による視聴覚教材を活用し、学習習慣の確立、基礎学力 の定着、学習到達度の向上を目指す。 （２）個性を尊重した進路指導の推進 ・二年次においては、一人一人の個性を大事にし、個性を尊重した進路指導を推進する。 ・自分の進むべき道について、自ら探究し、正しく判断し、よりよく表 現や行動ができる。 （３）社会で活躍できる人づくり ・三年次においては、社会で活躍するために「社会人となる」にふさわしい人材の育成。 ・目標を持って、自らの未来を切り開いていけるようにする。	学校法人 誠恵学院 誠恵高等学校 校長 鈴木 珠美	
	校訓の「誠の心にしたい信念を貫く」のもとに、実践力のある生徒の育成を図る。				総合評価	（評価） B （評価文） 15 項目の評価において、B 評価 8、A 評価 7 と好評価を学校評価委員から出していただいた。 6 年度は、進路学習の手立てを多くもち、生徒の将来への意欲が上がり、大変良かったと考える。次年度より個々の学習意欲の向上にも力を入れていきたい。
学校教育目標	「新たな時代を豊かに生きる人材の育成」 （１）社会人としての必須スキルを身に付けさせる。 （２）マルチなコミュニケーション力を身に付けさせる。 （３）彩り豊かな教育課程を編成し、臨機応変な対応力を身に付けさせる。					
重点目標	I 達成目標	II 判断基準	I の評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力の充実を図る	①自ら学習に取り組み、予習・復習の習慣化に力を入れる。学力の定着と学習意欲の高揚を図る。	予習・復習の習慣化、学力の定着化を図るための手立ては（小テスト等）適切であったか。	B	Monoxer・小テスト・副教材を友好的に活用して予習・復習の習慣化を図ることができた。また、授業の導入やまとめにおいてグループワークを取り入れ、レポート課題に取り組ませるなど、学力定着の確認方法を工夫した。	B	小テスト・副教材を活用した予習・復習の定着の効果が、各定期試験の結果で出てきている。Monoxer の使用はモチベーションの高揚につながっている。
	②充実した指導計画のもとに教科指導を行い、多読、繰り返し学習などにより、「わかりやすく」「魅力ある」学習を展開する。	多読や繰り返し学習、また、「わかりやすく」「魅力ある」授業を行うことができたか。	A	各教室に設置された大型テレビを活用し、視覚的・聴覚的な情報を与えることで、わかりやすい授業が展開できた。また、発問の精選や1枚で完結する板書計画など、教材研究に努めることで、授業アンケートにおける生徒からの評判が向上し、魅力ある授業に近づけることができた。	A	教室のどの席にいても見やすく、分かりやすい大型テレビの存在は重要だと感じた。しかし、これに依存せず、従来の板書も工夫して、より質の高い授業を目指してほしい。
	③補助教材として「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用し、自学自習による学力の向上を目指す。	「スタディサプリ」・「Monoxer」を活用した学習に目標を持たせ、意欲的に取り組ませることによって、基礎学力を向上させることができたか。	B	実技を伴う教科など、補助教材としての活用が難しい教科もあるため、教員間や生徒間で取り組みに差が出てしまった。今後は、実技に関する基礎知識の課題を Monoxe で作成し、昼のスタサブタイム中に取り組ませるなど、全校体制で意欲的向上を図りたい。	B	生徒の取り組みが受け身にならないように、達成感を味わわせ、学習意欲を向上させるような施策が今後期待される。
	④目的意識を持って学習に参加できるようにする。漢字検定、英語検定、数学検定及び情報各種検定、その他検定試験に挑戦し、資格取得者を増やす。	目標を持って学習に取り組ませ、興味・関心・意欲等を高め、成果を上げることができたか。	B	資格取得に対し、興味や関心はあるものの、自信の欠如から受験を先送りにしたり、一歩踏み出せない生徒が多いと感じる。単に呼びかけるだけでなく、検定に関する講座を開催するなど、様々なバックアップを強化することで挑戦者を増やしたい。	B	スタディサプリの到達度テスト結果などから自分と合格水準との距離を明確にし、計画的に取り組めるメソッドのようなものできるとより良い。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
1. 学力を 図る 充実	⑤個に応じた指導、習熟度等に対応した授業の工夫・改善により、分かりやすい授業を行う。	校内研修や各教科部会等での研修を通して、学習指導法の改善に努めることができたか。	A	外部研修で学んだ内容を校内研修や教科部会で共有することで、学習指導方法の改善に努めることができた。また TT の導入や生徒理解研修を通して、習熟度の異なるクラスの授業においても、個に応じた指導を心掛けることができた。	A	外部研修を紙だけでの報告・説明にするのではなく、対面で共有するのは有意義に感じる。また授業では、個に応じた学習指導が集団指導とバランスよく行えている。
2. 日々 の生 活の 充実 を図る	①自己を大切にし、他人への思いやりを持った責任ある行動をとる。生徒との意見交換を通して、生徒を育てる。自らの意志と責任で行動できるようにする。	全教育活動を通して個に応じた指導を進め、また、カウンセリングマインドで生徒に接し、生徒の心を育てる教育が実践できたか。	A	生徒との会話や面談の機会を積極的につくり、悩み相談を通して問題の未然防止につなげることができた。問題が表面化した場合は SSW や mirai cafe、カウンセラー、家庭、管理職と連携し、全体で生徒の心を育てる態勢を取ることができた。	A	生徒の悩みや問題解決に向けての手段がいくつも用意されているところに頼もしさを感じる。
	②生徒の良い点を伸ばし、改めるべきことは改めさせてやる気を育てる。	生徒ひとりひとりに改めるべきことを自覚させ、良さを見出し、意欲の向上につなげることができたか。	A	個人面談や日頃の何気ない会話の中で生徒の良いところを指摘し、その都度称揚している。改善点に関しては、「一緒に直していこう」と声をかけ、生徒一人にすべてを負わせないようにするなど、意欲の向上につなげることができた。	A	生徒の様子を休み時間、授業中と本当によく観察されている。その安心が意欲の向上につながっている。
	③挨拶・言葉遣い・服装等を正し、遅刻・欠席の防止、清掃の指導を徹底する。教職員は倫理を重んじ、自己試練を含め厳格なる手本を示し、生徒の範となるよう努める。	教師として厳粛なる倫理観のもと生徒に範を示し、遅刻・欠席を減らす指導や、適切な挨拶、言葉遣い、服装等の生活指導を、厳しくまた温かく進めることができたか。	B	自ら範を示しながら、挨拶・言葉遣い・服装等に関する個別指導、全体指導を根気強く行った。欠席・遅刻を減らす指導においても、家庭との連絡を密にとり、SSW と連携して丁寧に行った。その指導が改善につながることもあれば、全くつながらないこともあった。正解はないと感じるが、常に生徒の心に寄り添いながら、最善の方法を模索していきたい。	B	生徒一人ひとりに合った指導を模索する上で、慣例や既成概念に左右されず、啓発的に進められている。反面、その柔軟性が緩みを生じさせることもあるため、芯を持って対応してほしい。
	④社会に出て認められる人間になるよう自らを伸ばし、他とともに切磋琢磨する。社会貢献の気持ちを育てる。	授業・諸活動の体験等を通して、ボランティア精神や社会貢献の気持ちを高めることができたか。	A	本年度よりクリエイティブクラブ（ボランティア関連）を設置し、ボランティア活動を周知するだけではなく、沼津市社会福祉協議会や常葉大学主催のボランティア活動、沼津市主催の「OPEN SCHOOL NUMAZU」への多数参加など、実績を重ねることで生徒の社会貢献の気持ちを高めることができた。次年度は、上記活動をより活性化させるための施策を講じたい。	A	高校生がボランティア活動に参加し、地域に貢献することはとても大切だと思う。今後も継続して取り組んで欲しい。
	⑤生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の指導すべき点は同一歩調で対応し、その場で正し、職員の連携を図る。細心の注意をもって生徒・保護者との信頼関係の構築に努める。	生徒指導上のことについて、報告・連絡・相談を適切に行い、保護者との連携のもと全校体制での対応ができたか。	B	生徒指導上のことは1人で抱え込まず、迅速に学年主任・管理職へ報告・連絡・相談を行った。その後、必要に応じて保護者面談につなげるなど、全校体制での対応ができた。	B	個々を尊重する学校として、通常の生徒の生活の様子を保護者に伝える機会を増加させると良い。

重点 目標	I 達成目標	II 判断基準	Iの評価	III 成果及び改善点	評価	IV 学校関係者からの意見
3. 社会に貢献する態度と能力を育てる	①社会人となるにふさわしい健康管理を身につける。	生徒自らが進んで規律正しい生活、健康の保持・増進等に努めることができる指導を適切に行い、その成果をあげることができたか。	B	生活習慣の改善が必要な生徒に対し、時間の使い方を見直し、食生活や睡眠の質を上げる方法を具体的に提示するなど、適切な生活指導を行った。しかし、出席率が 90%を割る日が続くなど、成果につなげることができなかった。今後は家庭との連携を強化し、その成果をあげたい。	B	生活習慣については、家庭によるところが大きいと、関係を密に取り、より強力な協力体制を築く必要がある。
	②目標を持って自らの未来を切り拓いていく。	個性に応じて進路が決定できるようにするため、一般的な教養を高め、専門的な技能の習得に努めさせることができたか。	B	既存の知識にとらわれず、様々な分野に対する興味・関心を尊重する本校の校風が、多様な学びにつながっている。生徒が将来やりがいを感じられる仕事に就けるよう、今後も個性の伸長につながる指導を展開していきたい。	B	校風が生き、様々な体験を通して興味・関心を引き出せている。今後はそれをもう一歩進め、より進路につなげられるような指導を期待する。
	③「社会に必要とされる人材の条件」を理解させ、人生を豊かにできるよう指導する。進路指導計画の充実を図り、保護者・生徒との相談に応ずる。	進路指導を計画的に進め、資料提供や進路相談を適切に行い、進学・就職指導に留まらず生き方指導につなげることができたか。	B	三者面談・二者面談を通じて生徒の実態や保護者の思いをくみ取り、資料提供や進路相談を適切に行った。また、学校内のルールを守ることこそが、社会に必要とされる人材の条件であると周知させ、その指導の徹底を心掛けた。これらの指導を自身の体験談を通して伝えることで、生き方指導につなげることができた。	B	自分の仕事が会社の人だけでなく、社会の誰かを支えるということを実感することでモチベーションや、やり甲斐につながると思う。そういった観点から職業を捉えることのできる進路指導を進めてほしい。
	④進学コース、普通コースの指導を充実させ、国立大学、有名私立大学への進学を増やす。	進学希望者への学習支援を行い、学習環境を整え、受験への対応ができる指導を進め、成果を上げることができたか。	A	図書館や学習室の整備が進み、充実した学習環境を活かした個別指導を充実させることができた。また、小論文対策や児童ボランティア幹旋など、進路実現に向けて十分なサポートを展開することができた。今後は、現在プレ実施している土曜講座を充実させ、教員個人の力量だけではなく、組織としてバックアップしていきたい。	A	学習環境の整備充実が進学率向上につながっている。半面、教員の負担増も気になる場所なので、土曜講座の実施に関しては工夫が必要である。
	⑤就職指導では、企業訪問など本校の実績を更に高めるよう努力する。	就職希望者の求職意欲を高め、企業訪問を実施し、就職内定率を高めることができたか。	B	企業訪問以外にも、企業来校の際の対応や名刺交換会などの場を活かして、本校の進路動向や特性、生徒・保護者の現状と今後の見通しなどの情報交換を綿密に行うことで、内定率の向上に努めた。その結果、1 回目の就職試験を終えた段階で 80%の内定率を達成した。	A	就業意識が低く、欠席がちな生徒に対する指導も手厚く、企業からも卒業生の従業員に関する良い評判を耳にする。継続して内定率の向上に努めて欲しい。